

平成30年度第1回仙北市総合政策審議会 議事要旨

- 日 時 平成31年1月22日（火） 14時～16時45分
- 会 場 仙北市役所田沢湖庁舎3階 第1会議室
- 出席委員 中村正孝会長、能美忠堯副会長、池本敦委員、新山睦子委員、赤上マツ委員
- 欠席委員 佐藤和志委員、田口知明委員、草薨隆委員、橋本護委員
- 市 門脇光浩市長、小田野直光地方創生・総合戦略室統括監、
藤村幸子地方創生・総合戦略室長、明平英晃地方創生・総合戦略室主任、
齋藤郁弥地方創生・総合戦略室主事
- 事務局 大山肇浩総務部次長兼企画政策課長、畠山徹企画政策課長補佐、
豊島孝樹企画政策課主事

1. 開会（大山次長）

本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。只今から平成30年度第1回仙北市総合政策審議会を開催いたします。任期満了に伴い、今回から新任委員となられた方もおられますが、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 市長挨拶

新年が明けまして、2019年が素晴らしい年になりますように、皆さまのご活躍ならびにご協力をよろしくお願いしたいと思います。本審議会の位置付けとしましては、以前の議会においても非常にご指摘が多く、しっかりと審議していただきたいというお話をいただいております。平成27年度に策定した総合計画は平成31年度目標でどれだけ達成できるものかという議論は今までもありましたが、その平成31年度が来年度に迫ってきている状況で、目標設定したものをしっかりと実現するために予算の編成にあたっております。しかしその前段として、計画の進捗や充実度が重要になります。それを予算に反映しなければならないわけで、まさに本日の審議会のあり方自体が予算編成に直結しているということになります。そのため本日は率直な評価、ご意見をいただかなければならないと思っております。皆さまには市民の方々の代表ということで、その任務をしっかりと果たされるようご尽力いただければと思います。

平成31年度の予算の概略はほぼまとまっております。平成30年度当初予算は197億円程度となっておりますが、31年度は211億2千万円ほどでスタートする予定です。30年度と比べると随分と増額していますが、交付金の減額など、依然厳しい状況は続いておりますけれども、それでも予算が膨らまなければならなかった要因がいくつかあるわけがございます。それはこれまでの13年間で市が誕生してから様々な場面で議論されてきたいくつかの課題の解決に向けた方向性が決まり、それを

実践していく段階に入っているわけであります。例えば、市の庁舎の中で最も老朽化している角館庁舎の新設については31年度からスタートするものになります。これには、全体で24億ほどのお金がかかります。これほどのコストをかけなければならないものとして、他には総合給食センター、今まさに建設に入ろうとしているこちらは建築費が11億円ほど必要になってきます。それから、老朽化した小中学校の校舎の改修工事など、これまで色々な議論をしてきたものが、国庫補助金や地方債の段取りがついていよいよ始まるのが31年度から本格化してきます。31年から33年までの3年間は仙北市にとって非常に重要な、発展する力を内包したまま仙北市を次の世代に渡すことができるかどうかを試される年であります。仙北市の将来をしっかりと開くためにも、どうかご議論をよろしくお願いしたいと思います。

3. 委嘱状交付（門脇市長から各委員へ交付）

4. 自己紹介（各委員より挨拶）

5. 職員挨拶

6. 審議案件等

（1） 会長及び副会長の選任について

○門脇市長（司会進行）

先ほど、31年度予算の概要をお話ししましたが、本来であれば当審議会等で政策を進めるべきかどうかを先にお聞きしなければならないのではないかと思います。それを少しずつでも予算に反映させていただきたいと思います。一方で市は非常に厳しい財政状況にあります。市の活力をしっかりと維持して将来に繋げていくことの一つの手法としては、行政は様々な目標を持って政策を練り込むわけですが、審議員の皆さまには、まちづくりに対する参加や市民の活動を応援する風土等、地域に無ければならないものを審議の中に取り入れていただきたいと思います。基本的には、政策があって初めて仙北市の方向性が具体的に見えてくるといったまちづくりをすることが何よりも必要なのではないかと思います。その重要な審議会の代表を務めていただける方をこれから選任していただくことになります。

会長及び副会長の選任に先立ちまして、本日の出席者数は会議開催の定則数に達しておりますので、この会は成立したことを報告いたします。会長及び副会長の選任におかれましては、委員の皆さまから互選していただくことになります。

○新山委員

会長と副会長は能美委員と中村委員にお願いし、池本委員からご意見を伺えれば色々話題が広がるのではないのでしょうか。

○能美委員

前回副会長を経験した中村委員に会長をお願いしたい。

○中村委員

今日は色々と話したいことがあるので、能美委員に会長をお願いしたい。

○門脇市長

会長になった方の発言する機会が減るということはありませんし、中村委員は当審議会の経験も長いので、ご検討ください。

委員による協議の結果、中村委員が会長、能美委員が副会長に決定。以降は中村会長が会議を進行する。

○中村会長

大変難しい課題を与えていただき、それを我々が今日審議していくことになります。その結果が仙北市の様々な面へ波及していくことになりますので、皆さまには建設的な、あるいは色々な視点からものを見て、意見を出していただければありがたいと思います。黙っていれば足踏みどころか後退してしまいますので、少しでも前に進めるような会議にしていきたいと思います。

ただ、今日の欠席者を見れば、色々な立場にいらっしゃる方々なので、出席していればまた違った意見が出ていたかもしれませんが、いずれにしても今日参加している9人で市の色々な課題について率直な意見を出し合っていければと思います。市の方からもその都度助言をいただきながら進行していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

(2) 平成29年度仙北市総合計画実績について

畠山課長補佐から資料を元に報告。

(3) 平成29年度仙北市総合戦略評価・検証について

総合計画及び総合戦略のうち、目標評価がC評価となっている施策について審議。

《1. 創造性あふれる産業が息づくまち【産業振興】について》

○中村会長

観光アクセスについて、刺巻のミズバショウ群生地のにぎりでバスを待ったり歩いたりしている人をよく見かけますが、あそこの交通の便は改善できないかなと思います。刺巻駅に止まる列車もあるにはありますが本数が少なく、バスを利用するにもバス停まで歩かなければならず、自家用車を使う人以外では不便ではないかなと思って見えています。

○赤上委員

私はよく湖畔の県道を利用しますが、県道の湖畔側と民家側で樹木どうしが被さるようになっており、まして冬場になると枝に雪が積もって大型バスに当たってしまう恐れがあるので、その整備について検討していただきたいと思います。

○門脇市長

刺巻を訪れる観光客の誘導についてですが、観光協会の方でも色々ご意見をいただいております。今まではインバウンド対策ということで、国からの補助金の活用によって抱返り溪谷やあきた芸術村、角館駅を繋ぐバスを運用しております。また、市内を循環する1日乗り放題バスというものもございまして、これに刺巻の湿原を停留することはできないかという意見もいただいております。これについてはもう少しお時間をいただきたいと思います。

赤上委員のおっしゃる湖畔の樹木の枝につきましては、雪の重さで枝が道路に落ちることもあります。これについては秋田県の仙北地域振興局に対応していただいております。県道は県の管理になっていて、県道の除雪については県と情報を共有している状況であります。ただ、対応がスムーズにこなせるかという点については心配な面もあります。これは県との関係もございしますので、来年度早々に行われる地域振興局との協議の際にお話しさせていただきたいと思います。

○中村会長

アスリート合宿誘致について、ナショナルチームのみならず実業団などにおいても、正規のルールに則った会場というものがあると思います。例えば、バレーボールにおける体育館の高さなど、それぞれのスポーツのルールに見合った施設の規格というものがあります。そういったものをきちんと把握して、それに対応した施設があるかどうかということも一つだと思います。大きなチームは最終的に大きな大会を目指すものですから、それと似たような施設でなければ意味が無いんですね。そういったスポーツの必要要件を備えた施設でなければ、なかなか人が集まってこないと思います。

○門脇市長

会長のお話しのとおり施設の規格、充実度が合宿を誘致するために力不足であるということとは承知しております。仙北市の場合、体育施設が弱いので、体育施設の強化、これは当審議会に留まらない重要な課題となっています。議会でも総合体育館をどうするかということも議論になっており、これは非常に財源がかかるものですから、それを市で建設するのか、もしくは民間企業からのご賛同をいただいて助成をするのか、岐路は様々なわけです。

○中村会長

空き店舗の活用については、商業用施設としての活用を想定しているものですか。

○畠山課長補佐

基本的に商工会を通じて行っている事業ですので、まず商業的な利用ということで今回の助成対象を考えております。

○中村会長

田沢湖と西木をこの事業で強化したいというお話がありました。店舗が無くなったのは無くなったなりの理由があると思います。私は必要無くなったのだらうと思っております。と言いますのも、昔は商店街という言葉が出てきておりました。今、商店街というものがあるのは角館地区だけだと思います。大型店舗が一つできてしまえば商店街はもういらなくなってしまいます、そういう現状があるのではないかなと。その点で言えば西木や田沢湖は新しい店舗はなかなか進出できない、あってもコンビニ等であれば需要が出てくるんでしょうけれども、例えば八百屋や魚屋といったものは大型店に人を取られてしまう。逆にそういった発想から別の分野の開拓をしていくことも一つかなと考えております。

《2. 人が輝き安心して暮らせるまち【生活安全】について》

○池本委員

水道普及率は現状値より下がってきているわけですね。主な理由は井戸水を使っていることだと思うのですが、各家庭に水道水へ切り替える際の負担等があるのでしょうか。

○畠山課長補佐

水道管の本管から自宅までの引込みについては自己負担となっております。水道水は水道料金がかかってきますが、現在井戸水を利用している方は既存の電気料のみで対応できています。そのため、整備はしても自宅には水道水を引込まないという状況にあります。

○池本委員

今は法改正で民間の業者へ水道事業を委託する等、色々な地域で水道に関する課題が増えてきています。水道普及率も重要ですが、やはり需要があるところにきちんと水道を整備することが重要なのではないのでしょうか。

○門脇市長

今のお話しにありました水道事業の民営化、事業化は議会でも話題に挙がり、私たちとしては例えば今後、民営への譲渡が時代の大きな流れとなるとしても、その前に昔からある老朽化した水道管がありますので、その改修に相当な費用が見込まれます。また、水源の汚染や枯渇という現象が発生していて、これらの事情を踏まえたと、今は仙北市単独の事業であるわけですが、例えば大仙市や美郷町と、もしくは県全体での取組み等、民営化の前にしなければならないのは水道事業の広域化ではないかなと思っています。そういう意味ですと、市内の水道

未普及地域に水道を普及させて自治体内広域化していくという考え方も前段としてあるだろうとも思います。実際、31年度では、神代地区への水道事業の着手、中川の山谷川崎の地下水の汚染に対する水道事業のスタート等、新しい事業が開始されるわけですがけれども、先ほどお話ししたとおり、事業開始当時は水道が整備されればすぐに加入すると言ってくれる方もいますけれども、実際には地下水が住宅に出るという集落がたくさんあるわけですから、あまり加入率が改善しないと。ということになると投資額ばかりが増えて、けれども水道料金だけでは賄えないという状況になっています。これはとても大きな問題で、確実に水道に加入しますよという人たちのいる地域に水道管を導入するということを前提としていかなければならない。また、今ようやく田沢湖と角館の水道料金を一本化することができたわけですがけれども、できた途端にまた水道料金の議論をしなければならない、という現状です。

○中村会長

松葉など、民家が固まっている集落だと採算的にも工事が楽でしょうけれども、民家が散らばっているところに一つ一つ水道を導入してはとてもお金がかかると思います。民営化しても雫石町のような事態が起きてくるかもしれません。

○赤上委員

先ほどデマンドタクシーの報告がありましたけれども、高齢者の利用が増えているということですがけれども、地域に照らし合わせてみると、高齢になると家の人へ病院や買い物に行くための車の運転を頼み辛く、電車もなかなか不便で、自宅の近くから目的地まで運んでくれるこのタクシーは本当に便利だという地域の方々からの声が挙がってきています。これだけは続けていただかないとそういった機会も失われてしまいますので、これだけが地域の希望となっています。

○門脇市長

以前桧木内地区のまちづくりの懇談会で挙げた話題ですが、高齢で免許証を返納している人もおり、夫婦であっても旦那さんが言うことを聞いてくれないと目的地へ連れて行ってもらえず買い物にも不便するそうで、デマンドタクシーをご利用いただいているようです。ただ、デマンドタクシーだけではなくて直通の生活バス路線を整備できないか、これが今の検討課題になっています。

○赤上委員

デマンドタクシーの予約の電話も、歳を取れば不便になってきますよね。その辺りを地域に人が手助けするような地域づくりが必要という話もあり、50代から60代のまだ免許を持って運転できる人が何かアクションを起こして、100円でも200円でもお小遣いをもらう、そういった助け合いみたいなものが作れないかが課題に感じますね。

○門脇市長

以前、有償ボランティアということで桧木内地区のある方が送迎をしていたんですけども、長く続かなかったんですね。その要因として何があったんでしょうか。

○大山次長

運行エリアが限定されたというのが一つ、あとは現在高齢化率が更に上がっているのに、謝礼を受け取って運送するというのは国の方でも許可しようという動きがあるのですが、実際にはその謝礼が何円までならよいのかというところが決められないのが現状です。ですが、運転できる方が地域のお年寄りを車に乗せて運転して帰りに謝礼を貰っても構わないという状況にはなりつつあります。

○門脇市長

市では地域公共交通会議が既に組織され、各交通事業主体の方にご参加をいただいて色々な議論をしているまただ中であります。その会議で自分たちが普段考えていること、例えばデマンドタクシーについては、各停留所を寄って目的地へ行くため、まっすぐ病院に行きたいにも関わらず遠回りで時間がかかるという意見があり、直通でバスを走らせてほしいということです。バスを走らせるとなると、例えば羽後交通のバス路線の上を走らせるわけにはいかないといったことを解決するための会議になります。例えば小学校で運用しているスクールバスに地域の方が乗ってもよいのではないか、といったお話しに対する解決を模索する場面としても、地域公共交通会議は機能しているわけであります。制度的なところは国が考えていただいているわけですし、仙北市も特区ですので、様々な制度が通りやすいわけですが、交通会議での議論を飛び越えるわけにはいかないのです。

《3. 優しさにあふれ健やかに暮らせるまち【健康医療福祉】について》

○赤上委員

仙北市地域子育て支援拠点事業については、就園前の子供がいる親御さんが対象ですよね。あるいは幼稚園や保育園、認定こども園を利用していない親御さんが対象ですよね。私は角館の辺りの利用者が多いと思うのですが。

○畠山課長補佐

委託先が角館児童館を使用して開催しているので、角館の人の方が利用率は高いです。

○赤上委員

そういった利用率は、今ある保育園やこども園等の今後の動向と関連していくのではないかと思います。田沢湖、西木、角館は認定こども園が設立されて、子育て支援の拠点として週1回くらいは在園児童との交流など色々な体験学習ができるようになっていきますけれども、そ

れができない地域の親御さん、あるいは自宅で子供を養育しようという親御さんもいるわけです。そういった方々に対する、幼稚園や保育園のこれからのあり方やビジョンに関わってくる気がします。

○門脇市長

私たちが想定しているところは、はなさき仙北さんが田沢湖の2つのこども園を管理し実績を上げて力をつけているところですが、平成32年には西木地区の社会福祉協議会で運営しているにこにここども園とひのきないこども園の2園をはなさき仙北さんの管理をいただくようにしたいところです。また、平成33年には角館こども園を民営化できないかと考えております。

そもそも、はなさき仙北さんが設立された要因としては、保育士の方々の安定的な雇用を確保し、ライフプランを構築できるような職が無ければ子供たちへの安定した対応が困難になると考えられているからです。ところが、ハード的な話になると中川、角館西、そして白岩の施設は老朽化が著しく、これらの施設の改修をどのような手法で行うかということ無しには、仙北市内の子育て拠点の公平化が成り立たないという課題があります。少なくとも自治体で改修する費用については国からの応援が全く無い状況ですが、はなさき仙北さんだと民間の保育事業者なので国からの補助金が貰えるということで、財源的には余裕があります。その議論を早く始めなければならないところです。赤上委員が心配されている子供たちをサポートする地域的な環境の公平感を保てないという議論もあります。

○赤上委員

私ははなさき仙北の評議委員をやらせてもらっていて、内情を伺う機会がありました。確かに市長のおっしゃるとおりそこで働く職員のモチベーションはすごく上がっているので、あちらに移行したのは良かったと思っています。そのスピード感をもう少し公平にできないか、なぜこれほど時間がかかってしまうのかと疑問に思っていました。今の実情を聞いてよくわかりました。

放課後児童健全育成事業について、放課後のご家族と離れる時間は本当に大事な時間です。その時間はそこに配置される職員の質や活動の内容が反映されてくると思います。その基準や計画というものは現場にいるリーダーなどが決めていて、現場に任せているものなのでしょうか。

○門脇市長

放課後児童クラブは非常に難しい問題です。なぜかと言いますと、子供たちは学校では子供の数も多いので一定の緊張感を持って生活できるわけですが、放課後児童クラブになった途端に解放される、それはそれで良いことではあると思いますが、それによってサポートする方々もたいへん難儀しているので、非常に難しいです。精神的な拠り所になる先生を見つ

けたので、その先生が色々なお話しをされて支えているわけですが、依然そういった状況が続いています。職員の人数も決して十分とは言えません。

《4. 自然と調和した潤いある暮らしを実感するまち【環境土地利用】、及び
5. 個性豊かな心を育むまち【教育文化】について》

○新山委員

桧木内川の桜並木の保護管理ですが、横町の方は近隣の小学校などで手をかけているようですが、落合側は若い木だからということもあるのでしょうか、あまり手をかけていないのでしょうか。今手をかけて行かなければ今後横町側の木が駄目になった場合に桜並木の魅力が失われてしまうのではないのでしょうか。

○門脇市長

今、皆さまをお迎えしている桧木内川の桜並木は、桜の寿命からするとまだ大丈夫だということですが、心配なところではあります。落合野球場の付近は文化財指定がされておらず、あまり手がかけられていないという状況にあります。また、古城山や、角館に限らず田沢湖の高原や湖畔、西木の森林公園など、市内の各所に桜があるので、31年度から専門のセクションを立ち上げることにしました。今までは文化財課が文化財として登録されている桜の管理を職務上行ってきたわけですが、現場の人数で市内の桜全てを管理するというのは無理だということで、文化財課の管轄外の桜については、観光課に「桜まちづくり事業」というセクションを設けて対応していきます。

○新山委員

読書環境の充実について、蔵書に関してはわかりますが、市で所有している武家屋敷の資料などのアーカイブ事業の立ち上げといった、今後のためにやっておかねば万が一仙北市が無くなってしまった場合に情報を後世に残すことができなくなる、そういった事業に対する取組みの予定は無いのでしょうか。

○門脇市長

議会でもその議論の声が大きくなってきております。きっかけは大仙市のアーカイブ事業が順調に進んでいることだと思いますが、公文書の管理にも関わることなので、実際に行って実情を伺ってきたわけですが、莫大な予算がかかるわけですし、それだけの規模のものを、ということではない状況ですので、文書管理を徹底しようという方向付けです。現在、庁舎整備事業と連合して検討を進めている次第です。新角館庁舎が着工するということは、今後の角館庁舎と西木庁舎の役割が明確になるということですので、それらの二つの庁舎を含めて現在遊休施設になっている庁舎の利活用の一歩案としてアーカイブとしての公文書の管理をどこそこで行うという議論が今後本格化されてくると思います。32年の9月に新

庁舎への引越しが行われますので、その１年前となる今年の夏にはその議論が行われてくるものと思います。

○中村会長

外国青年招致事業については英語が関わってくるので、関連指標に中学校３年生の英検３級合格率であるのは理解できます。しかし、スクールカウンセラー活用調査研究事業、キャリア教育・ふるさと学習支援事業、Get Back 推進奨学金補助事業については英検３級の合格率を関連指標とするのは理解できないのですが、どうでしょうか。

○畠山課長補佐

こちらの３つの事業については、総合戦略において掲げているものとなります。スクールカウンセラー活用調査研究事業につきましては、１年に３０日以上欠席した児童生徒数を３１年までに７人以下にするという目標で２９年度実績においては１３人となっています。この事業につきましては、目標指数は英検３級の合格率ではありませんでした。申し訳ありません。

○中村会長

キャリア教育・ふるさと学習支援事業を欠席３０日以上と結びつけるのはまだ理解できますが、英検の合格率と結びつけるというのは、大項目の中に入っている事業だからそうなのでしょうけれども、違和感を覚えますね。

○小田野統括監

おっしゃるとおり、一つの項目の中に色々な事業が入っていますが、総合計画を立てた時に設定できた目標が英検３級の合格率のみだったということもあり、厳密に言えば、英検３級と関連のある事業にのみこの目標を当てはめることが望ましいと思います。例えば、学校給食センターについての事業も同じ項目の中に入っていて、今後の目標管理をもう少し整理した方がこのような矛盾が無くてよいと思いますので、今回ご意見をいただいたので来年度以降に工夫していった方がよいかと思います。

○中村会長

では、次の頁の演劇大学設置調査事業については、関連指標が欠席３０日以上と児童生徒数ですが、これはどうなのでしょう。

○門脇市長

演劇大学の考え方というのは、あきた芸術村が役者さんや演出家、音楽家、そういった人材を活用することで、自己表現がしっかりできる人材の育成する拠点として実現していきたいという思いがあります。

○中村会長

つまりは演劇教室のようなものなのですね。でしたら事業名の後に括弧書きでもいいのでそのように表現していただけるとわかりやすいと思います。

○門脇市長

適正な表現に直せるようにしたいと思います。

○中村会長

ALT を導入していますけれども、生の英語を聞けば英語の成績に直接波及するという訳でもないし、英語力がすぐに上がる訳でもないと思います。それでも、異文化との交流や接触による学習分野の広がりといった、英語に限らない面での影響も ALT にはあるのではないかなと思います。

○新山委員

ALT にも色々な方がいて、子供たちに一生懸命積極的に接していくという人もいれば、子供が来れば英語を教えるといった人もいます。英検3級はどちらかというと英語力よりもゲーム感覚で選択肢を選んでいって合格できましたという子供も多いので、むしろ英検準2級や2級を目標にした方がもっと意欲的に取組んでいけるのでは無いかと思います。

○中村会長

人材バンクについてですが、私も社会教育について依然登録したのですが、その時も人材バンクとして色々な分野を登録するという触れ込みでしたが、ほとんど頓挫していました。結局のところ、はっきりと課題を挙げてもそれを活かす人間がいないという課題がありますし、登録した人の中にもせっかく登録したのに使ってくれる人がいないという人もいるでしょう。需要と供給のバランスが難しいところですね。必要と言われる人は毎日でも講座などを行っているでしょうし、そうでない人は何年登録してもお呼びがかからないということも起こりうると思います。

《6. 誇りある暮らしをつなぐまち【移住定住】、7. 新たに創るゆめのまち【地方創生】、
8. みんなが主役協働のまち【住民参画交流】について》

○中村会長

インバウンド誘客推進事業、これは「観光の振興」においても同じ項目が出てきています。これは前の事業とは別の事業ということなのでしょうか。

○畠山課長補佐

事業によっては指標に与える影響が重複するものもあるということで、まず「観光の振興」

に影響がある事業であることと、地方創生という観点では今後外国人観光客の誘致を強化して地域を活性化するという点でこちらの指標にもインバウンド事業を入れております。そのため、両方に掲載されている事業となります。

○中村会長

もしできれば、後の方の項目にどの項目と同じであるかわかるように何か書いていただくとありがたいです。

○畠山課長補佐

「再掲」という表記をするようにいたします。

○中村会長

以上で総合計画の報告は終わりですが、他に全体を通して何か意見や質問はございませんか。

○門脇市長

最近私が悩んでいることで、最近予算編成の時期に入っていることで色々と思いがぐねていることがあります。それは予算編成をする際の財源が不足しているからということもありますけれども、行政の役割というのはどこまで市が市民の皆さまの税金を投下しそれを活用させていただいて、事業を行うということの限度についてです。継続して様々な団体へ補助金を出しております。その団体の方々には色々な事業がありますけれども、決して独り立ちできる状況にはなりません。そういった団体に成長の基盤を作っていただくために、一時的な応援ということでお金を使うと判断して予算を計上しているわけですが、それが経常化している状況がたくさんあるわけです。準公営・公共の団体は別としても、まちづくりをしていただいている団体などはできるだけ応援したいのですけれども、それが財源の無くなってきている状況で金の切れ目が縁の切れ目のように活動の切れ目となってしまいうように見えることもあり、これでよいのだろうか。本当にその団体の方々が思っている応援の仕方は予算という形だけでよいのかなと。違う応援の仕方をしなければならないのかと思っているわけであります。

○中村会長

大変難しい話題です。場合によっては、お金が欲しいという団体もあるだろうし、人手が欲しいという団体もある。

○門脇市長

人の手配やネットワークの共有など、そういったことをやろうと思えば手間がもっとかかってくるわけです。

○中村会長

ただ、色々なところにいると、補助金が切れてしまえばその事業も頓挫してしまうという団体が大概ですね。自分たちの財源で活動を継続していけるようにという思いでお金を出しているはずですが、どこかで躓いて頓挫というのが大半ですね。

○門脇市長

ある地区の新春懇談会の時、参加者から「これから地域が生き抜くための取組みにおいて重要なことは、自分たちが何かをすることで地域はもちろん生き残るけれども、それが仙北市のためになるという目線は絶対に必要だ」というお話をいただきました。そういった目線を持って活動する方々を私たちはどんどん応援していくということを本来すべきなんですね。自分たちの動きは必ず仙北市のためになる、もしくは自分たちの活動がこれからの仙北市を元気にするという意識を持って活動してくれる方々をどのように掘り起こしていくかにかかっていると思うのです。言わば人材育成ですが、他の自治体ではそういったところにお金はかけていないというところもあるわけです。なぜ仙北市はそうならないのか、仙北市は何が間違っているのか、お金のかけ方が間違っているのか、団体への対応の仕方が間違っているのか、悩んでいます。

○中村委員

幼少期からの経験や思い出が積み重なってできるものでしょうね。郷里というものが大きなウェイトを占めているものがあるのでしょうか。小さいうちからそう思ってもらえるように、ふるさと教育もそのうちの一つのやり方だと思いますが、人によっては故郷を知れば知るほど故郷から出て行かなければならない、と考えた人もいますようです。どちらに転ぶかはわからないところですね。

○門脇市長

以前、なまはげのユネスコ登録の際、男鹿市をみんなで応援しようと言いました。男鹿市の菅原市長は大変喜んでいました。するとある市長が「それならこちらも応援してくれ」とおっしゃって、自分の自治体以外の24市町村を応援し合おうというお話になりました。理想論ではありますが、そうなれば秋田県は絶対に面白い県になる、そう思いました。仙北市の取組みも、市民のためのものが県全体のためとなるような視線も必要な気がします。

(4) 平成29年度地域再生計画評価・検証について

藤村室長が各事業の内容及び実施状況について報告。委員からの意見等は特に無し。

7. 閉会

○大山次長

長時間にわたり、ご審議いただきまして誠にありがとうございました。皆さまからのご意見、ご評価をまとめさせていただいたうえで次回の審議会にてご報告させていただきます。これをもちまして第1回仙北市総合政策審議会を閉会いたします。皆さま、どうもありがとうございました。